

兵庫版  
尼崎市名神町1丁目9-1  
兵庫県借地借家人組合本部  
発行人 田中祥晃  
06-6429-1500  
syakusyaku@m8.dion.ne.jp

# 全国借地借家人新聞

平日10時～17時迄  
土日祝日休刊



## 全借連オンライン3役会議開く

組合長 田中祥晃  
3月22日午後3時より、コロナ感染拡大による緊急事態宣言中であるため、全国組織の会議が困難になり、全借連の3役会議がオンラインで開くことになりました。

会議は全借連会長の田中祥晃、事務局長の細谷紫朗氏、事務局次長の綾達子氏、副会長の馬場博氏、副会長の狩保寛敏氏代理上野精一氏の5名でインターネットの映像を見ながら会議が始まった。

報告事項について細谷事務局長より、はじめに国土交通省が新たに「住生活基本計画(案)」の発表に伴い、同省庁に対しパブリックコメント募集が行われ、全借連と住まい連が共同記者会見を行い、これには住まい連から坂庭氏、全借連から細谷と綾両氏が参加して、住居費負担の軽減についての記述がないこと。家賃低廉化措置を予算上の制度

が、  
1、法令上の制度にするなど。恒常的な家賃補助制度の創設を盛り込みべきであること。  
2、住宅確保については、公営住宅が住宅セーフティネットの中心的役割と指摘しているが、具体的な

施策がないこと。公営住宅を補完する家賃低廉化等にある、専用住宅がほとんど登録されていないことを指摘などの報告がありました。  
3、全国各地からのコロナ禍による生活困窮化と住宅問題について、各地より報告された。

、多くの各階層での家賃の滞納問題、住宅ローンの返済が困難となり、住まいを失う人も急増していること。生活保護受給されている中の人からも家賃の滞納者が家賃保証会社から滞納請求の厳しい取り立て、退去要求、明渡しを迫られる状況が報告された。

田中会長からも報告で兵庫県でも同じような相談が相次ぎ、コロナ関連解雇や自営業者の廃業となり、生活保護申請の同行支援活動が増えている状況を報告した。

討議事項では  
1、家賃債務保証会社の規制については、消費者機構関西の差し止め請求事件で保証会社フォーシーズの家賃滞納で家財道具を撤去するなどの契約条項が消費者契約法違反に当たらないとした大阪高裁の判決。アパマンが紹介する保証

会社の保証委託契約の問題点。  
3、全借連第34回総会について  
4月号は2ページで発行する。  
6、組織と財政について  
コロナ禍の中だからこそ生活困窮者の多面的な相談に乗り、全借連の強大強化の取組みを強める。財政報告を討議して終了しました。

## 建築業OKライフサービス白山さんに聞く

### 第2回 組合と私



白山和明は1952年生まれ、5人兄弟の末っ子として尼崎市の尼っ子、48歳まで会社勤め退職後、自営業を興し地域密着型をモットーに親まれています。組合からリフォームの仕事を協力してもらっています。白山さんが経営するOKライフサービスのお店を訪ねました。経営はリフォームの建築と不動産業を営んでいます。昨年4月に民法改正があり、家主に建物の修繕を請求しても、修繕してもらえない場合、借家人が変わって修繕することができることになりました。こんな時に、修繕見積書の作成やリフォームにも協力してもらって、家主に修繕を求めています。

白山さんは現在。西宮市内で工事部門と不動産部門に分け(株)OKライフサービスでは気軽に相談に乗り、地域密着型をモットーにしています。サラリーマン時代には全国を飛び回って営業をしてきました。退職後は自営業を志して再スタート。お店を訪ねると工事・不動産屋さんのイメージとは思えない机が3脚と周りに椅子が置かれ、コロナ対策も行い、整理整頓され、ひと際目についたのはいくつも免許証でした。一人で免許を取得しているんですかと尋ねると、従業員が取った免許もありますと言っていました。従業員はチームワークを大切に仕事の始めと終わりにミーティングを行っています。また、仕事のやりがいを聞くと、「みんなから喜ばれることが一番うれしい」、「自分が前向きに捉えると苦にならない」、やる気あれば何でも出来る。パッキンや電球一つの取替えも地域密着型でやっています、その内に大きな仕事来ると組合への意見を聞くこと、全借連新聞・組合ニュースをよく読み、頑張っておられており、私も応援しますと言われ嬉しくなり取材を終りました。(取材 大塚伝)